



「寝る(休憩)」「食べる」「遊ぶ」のスペースを分けて、生活の流れを意識した施設にしたい。
そんな思いからロッカーなどで部屋を区切った(写真左)が、遊びのスペースが狭くなってしまったのでロフトを新設した(写真下)というのだから驚く

園の将来を考えて 幼稚園から移行した

13年前、幼稚園をやめようかとも考えていた時期でした。私が園に勤め始めた頃、200人定員で半分くらい、100人ちょっとしか園児がおらず、そのうち年少は15人程度と完全に先細りの状況でした。

空き教室が8部屋のうち3つもあつて、その1部屋を使って1～2歳児を預かる認可外保育を始めたのもこの頃でした。預かり保育も11時間保育に延長。そうしないと子どもが集まらないと考えたんですね。

この頃に認定こども園の土壌ができたといえますね。

そして2012年4月、園の将来も考えて幼稚園から認定こども園に移行しました。認可外保育は、新園舎の認可保育所となり、ちょうど2年が経ったところで



す。続いて2013年の1月には、在宅で子育てる家庭を対象とした子育て支援センターも開設しました。認定こども園になろうとしてなつたというより、機能を増やしていくうちに制度ができて、自然とそうなった感があります。機能が強化できて、なおかつ経営も安定し、子どもの育ちも保障できて、保護者に喜ばれ、職員も元気になりました。

というのも、現在7時～19時と12時間保育に延びましたが、逆に職員にはよい影響がありました。認可保育所と一体になったことで、保育士、幼稚園教諭、看護師、栄養士など職員の数や質も変わり、勤務時間や役割も融通し合えます。高かった離職率は低下しました。それまでの長時間労働には無理がありましたね。

また、幼稚園からの移行となると、給食施設が課題に挙げられます。そもそも子どもの食はどうあるべきかを考え、4年前には理事長室を調査室に改築していました。園舎には調理の音や匂いなどが漂うようになくて。これが食育につながりました。今は栄養士が4人いて、うち1人はできるだけ保育に携わらせ、「食を保育の真ん中」にすべく実践しています。

畑もあるので、年長組は何を育てるか話し合ったり、調べたり。園庭にはグミ、ブルーベリー、柿などの木々の実になります。田植え体験の後はおにぎりを食べ、給食で使う野菜の皮むきの手伝いは1歳児から。2010年開設のビオトープにはア



第1回 認定こども園 こどもむら
(埼玉県久喜市)

お話をうかがった人●理事長 柿沼平太郎 先生

園の3つの特徴

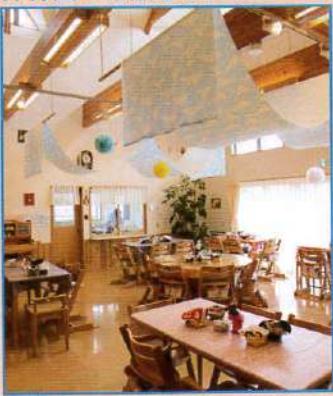
数あるなかから、自園の特徴を3つだけ、挙げていただきました。

支援センター併設の「森の図書館」



1500冊の絵本が並び、読み聞かせのイベントも

保育園の素敵なランチルーム



生活の場面ごとにスペースを分けている

緑豊かに生まれ変わった幼稚園の園庭



もとは1本の木しかなかったのに、植樹して森のように



栗橋さくら幼稚園

認定こども園 こどもむら

学校法人柿沼学園
栗橋さくら幼稚園(定員200人)
さくらのもり保育園(定員30人)
所在地:埼玉県久喜市伊坂46
理事長:柿沼平太郎
ホームページ:
<http://kodomomura.ed.jp/>



②子育て支援センター
森のひろば

①さくらのもり
保育園

相談室

遊戯室

食堂

森の図書館

ウッドデッキ

④子育て公園
あそびの森

③森の図書館

⑤栗橋さくら幼稚園

遊技場

保育室

厨房

園庭

⑥さくら
グラウンド

⑦ビオトープ
「じんだんぼうの
やま」

グラウンド

ビオトープ

森の図書館 さくらのもり保育園

プロフィール●渡辺 哲(わたなべさとる)／カメラマン、フリーライター。幼稚園や保育園を継続して取材するようになって10年、訪れた園は全国120を超える。



子育て支援センター「森のひろば」(写真下)は利用しやすさにこだわりを配る。ランチやコーヒーサービス、母親向けのファッション誌(写真左)まで。独立した専用の建物で1階、明るくて清潔、森の図書館も併設する

ケビが。自然の中で「心ゆきする体験」をさせてあげたい。そんな思いから、こども園への移行とともに、保育の実践も充実させてきました。

それと、在宅で子育てする家庭への支援がないことも気になっていました。特に自分

に子どもがでてからは、核家族で友だちもおらず行き場もない、たいへんな思いで子育てしている母親の存在を知り、それは虐待が起るよね、と思ったんです。だから、遊び場として子育て支援センターも作りました。

利用者は、平均して1日に親子20組～30組、多い時で40～50組くらい。登録さえしてもらえば、月～金曜の9時半～14時半まで、無料で自由に利用できます。庭でも遊びますし、絵本の図書館や、母親のためのファッション誌も用意して、とにかく居心地のよい環境を心がけています。登録は300人になりました。

支援センターを始めて1年と少しですが、日常的に利用してくださっている方も多いので、「私の園」という感覚も出てきているように感じます。園のルールも自然に守っています。ただける文化もでき始めています。また、園庭を16時頃まで開放していますので、園児の親たちも、14時半のお迎えの後も残っておしゃべりしながら、子どもたちは公園代わりに遊んでいます。「ここにいるっていいね、いつしょにいるっていいね」理念が形となりつつあります。すべては子育てを中心とした「まちづくり」だと考えています。認定こども園はまちの核となる施設です。

